

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	卒業研究(Graduation Thesis)		授業コード	C109932
担当教員名	濱田 大助		科目ナンバリング グコード	
配当学年	4	開講期	前期	
必修・選択区分	必修	単位数	6	
履修上の注意または履修条件	1 基本的なPCの操作(ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等)と学内LANの利用(Webからの情報収集、メール等)ができること。 2 卒業研究に着手するための修得単位を満たすこと。 3 研究テーマに取り掛かるための時間を十分に確保できること			
受講心得	テーマは主体的に模索し、期限内に結論と報告を行います。すべてのプロセスを認識し解決できるよう担当教員と相談して取り組みます。			
教科書				
参考文献及び指定図書	知へのステップ、ほかゼミナールにて使用した参考書、専門分野の参考書を用います。 各種データベース			
関連科目				

授業の目的	未だ解明されていない事象をテーマとして学生自らが主体的に結論を導きだすこと。
授業の概要	年間の取り組みとなります。中間発表や期末発表などについては、あらかじめ掲示板等に通知されるものを自ら判断しスケジュールリングします。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: テーマとプロセスを決定するために、使用するツールを紹介します。	
第2週: テーマとプロセスを決定するために、使用するツールを使用します。	
第3週: 文献等の調査	
第4週: 文献等の調査	
第5週: 既往研究との差異発見	
第6週: 研究方法の検討・決定・報告	
第7週～ 15週:	

研究の実施		
第16週: まとめ・中間発表・夏季休暇の計画		
第17週: 振り返り		
第18週: 確認		
第19週: 仕上げ		
第20週: 22 考察・結論の検討		
第23週: 25 論文と発表、ポスター等を用いての解説など通知される手法に沿って期限内に用意します。		
第26週: 27 論文執筆		
第28週: 29 発表資料の作成		
第30週: 期末試験 発表		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリ III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考	通年科目のため実施日を半期づつ調整します。 学生を受け入れる学会への参加を推奨しています。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	スケジュール管理と具体的な行動が伴う。
【知識・理解】	既往データ、文献等から身の回りの社会を認識・理解し、どこにひずみがあるかを把握できる
【技能・表現・コミュニケーション】	これまで学習してきた、各種ツールを用いて効率よく取り組みをまとめることができる。 客観的に自己の発表・論文を評価し改善できる
【思考・判断・創造】	取り組みにより得た内容を元に自らの思考・判断することができる。 研究内容を元に、応用することや創造することなど発展的な思考ができる。

○成績評価基準(合計100点)	合計欄	100点
-----------------	-----	------

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		20点	20点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	あらかじめ(期の開始時に)提示するチェック項目をすべて満たすことが最低限必要となります。
発表・その他 (無形成果)	期日までに論文提出・発表を漏れなく行うこと。決められた時間内に発表と質疑応答を完了させること